

～先天性サイトメガロウイルス感染症(CMV)～

☆CMVとは何ですか？

サイトメガロウイルス(CMV)は、ヘルペスウイルスの仲間です。人にしか感染しません。感染と感染症は違います。多くは不顕性感染といって症状の出る人はほとんどいませんが、CMV抗体を持つようになりますので一度感染したことは抗体検査をすれば分かります。日本人の妊娠可能年齢の女性におけるCMV抗体を持つ人の割合は過去の90%台から現在では70% (別の報告によれば60%)まで減少していることが報告されています。一度感染すると一生体内に潜んでいます。このため、再びウイルスが活発になったりする場合もないとは言えません。感染症をおこすのは免疫力の低下した特別の場合が多く、主に胎児、未熟児、臓器移植後、AIDS患者、先天性免疫不全患者などです。ただし健康な人でもCMV抗体(-)のまま経過し思春期以降に初めて感染を受けた場合、肝炎や伝染性単核球症などを発症する場合があります。注意が必要です。

☆母体への感染経路・影響

【飛沫感染、接触感染、性行為感染】
※感冒症状のため気づきにくいことがあります

☆母体への感染予防として

- ◇手洗い
- ◇できるだけ乳幼児との接触を避けましょう
- ◇性交時はコンドームを装着しましょう

☆児への感染経路・影響

- ◇ 妊娠時に初めて感染した場合CMVに対する免疫を持っていないため、無防備な状態で胎盤を通して胎児へと感染してしまいます。胎盤感染してしまう胎児の頻度は30～50%とされています。但し感染した全ての胎児に症状が現れる訳ではなく、何らかの症状が見られる感染児は10～30%程です。大多数の子どもは感染していても症状は見られません。
- ◇ 過去に感染したことがある場合は、体の中にすでに免疫ができています。CMVに対する免疫を持っている妊婦さんがもし、再びCMVに感染してしまったとしてもその免疫にかかわる抗体や細胞キラーが待ち構えて戦ってくれますから、CMVは胎児にまで到達できません。
- ◇ 妊娠初期に初感染し胎内感染すると、重症の場合流産や死産することがあります。また妊婦健診で行われる超音波検査で「胎盤や胎児の発達の異常」が観察されることがあります。代表的なものに、難聴、精神運動発達遅延、てんかん、視力障害、自閉症などがあります。

☆サイトメガロウイルス抗体価検査

- ◇ 妊娠初期 IgG抗体(-) であったものが妊娠中に IgG(+) になった場合
： 妊娠中の初感染と判断します
- ◇ 妊娠初期 IgG抗体(+) で妊娠以前の感染の場合
： 母子感染は起こりうるが、胎児への影響は初感染の場合に比べると少ないといえます
- ◇ 母体 IgM抗体(+) の場合
： 最近の感染と疑いますが、人により IgM抗体(+) が長期間持続することもあるので抗体価の上昇がないかなどを調べます

